熊本リハビリテーション病院広報誌 くまりは！ 2023年夏号

KUMAREHA

2023 SUMMER

106

TAKE FREE

Model：堀 耕太
（リハビリテーション科）

Photographer：
伊藤写真事務所

巻頭特集

第15回地域連携連絡会
開院50周年記念祝賀会を
開催いたしました

2023年7月8日(土)、ホテル日航熊本にて

第15回地域連携連絡会ならびに開院50周年記念祝賀会を開催しました

熊本リハビリテーション病院は昭和49年(1974年)に菊池郡菊陽町に開院し、今年度で50周年を迎えます。
これもひとえに地域の皆様、関係機関の皆様のご厚誼、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。
当院は病院理念に「保健・医療・福祉の連携を推進し、地域社会への貢献すること」を掲げており、地域の医療・福祉関係の皆様との連携を深めるための地域連携連絡会を平成18年より開催しています。
今回は50周年を迎えるにあたり、これまでの振り返りと今後の展望、そして地域に根ざした活動を広めるべく発足した地域貢献事業推進センターより講演を行いました。

早期リハ・早期退院・早期社会復帰をモットーにリハ環境作りと地域連携の構築に取り組んだくまりはの歩み

開院50年を振り返って

名誉顧問／古閑博明

名誉顧問古閑博明より当院のこれまでの主な取り組みと自身が院長時代に注力した事柄について講演を行いました。

開院当時(1974年)の熊本では湯之児病院(水俣)まで行かないとリハビリをすることができない状況だったため熊本市からほど近い菊陽町に熊本理学診療科病院として開院しました。(1986年6月熊本リハビリテーション病院へ名称変更)。古閑医師が入職したのは1989年4月、その後1994年に院長就任し、「早期リハ、早期退院、早期社会復帰」を目標に掲げ様々な取り組みを行ってまいりました。

回復期リハビリテーション病棟を早々に開設し、熊本県内では初の社会医療法人認定、医療機能評価(リハ付加機能)受審など枚挙に暇がありません。

一方で脳血管疾患の障害を考える会の発足など他医療機関と協働し脳血管疾患治療に関わる医療機関の連携構築にも取り組んでまいりました。

また、ナースキャップの廃止や電子カルテの導入なども県内ではいち早くに行いました。

そして新たな取り組みとして重症虚血肢の治療を行う2014年下肢救済センター設立、2017年より重症虚血肢に対する脂肪組織由来再生幹細胞を用いた再生医療を、2019年より脊髄損傷、脳卒中後遺症、変形性膝関節症に対する再生医療を開始しました(現在は慢性疼痛も承認されています)。

コロナ禍にて始まった院長としての責任、そして未来へ

これからのくまりは

続いて院長桑原公倫よりコロナ禍で対面でのご挨拶が叶わなかったため改めてご来場いただいた皆様へ院長就任のご挨拶をいたしました。

そしてこれからのくまりはとして、未来へ向けた短期・中長期の取り組みをお話いたしました。短期的な取り組みとしてはハイブリッドリハビリテーションのさらなる充実と発展。

院長／桑原公倫

直近ではレール走行式免荷リフト、バイタルスティム、ドライブシミュレーター等の機器を導入し、リハビリテーション環境の拡充を図るとともに基本的な手技やリハ栄養、嚥下チーム活動などソフト面の向上も永続的に取り組んでまいります。また今年度はMRI室を増築し新規のMRI機器を導入・稼働および透析装置を2床導入いたしました。中期的な取り組みとしては85歳以上の人口増加に伴う心不全患者の急激な増加を見据え多職種による心不全チームによる診療体制の強化を図ってまいります。

長期的には昨今の菊陽町の人口動態を鑑み、さらなる在宅部門の充実と健康なまちづくりに向けた地域への積極的な活動を行うため、地域貢献事業推進センターを設置いたしました。他医療機関、介護、福祉、行政とより連携を強化したいと考えております。

これからも地域の皆さまとともに歩み、患者様が活き活きと安心した暮らしに戻れるよう着実に努力してまいります。

『地域貢献事業推進センター』開設について

地域のために『くまりは』ができること

副院長／田中智香

リハ部門マネジャー／槌田義美

今年度開設いたしました地域貢献事業推進センターについて、副院長田中智香よりセンターの設立理念と目指す姿について、リハ部門マネジャー槌田義美よりこれまでの菊池地域リハビリテーション広域支援センターの活動を含む地域活動のご紹介とこれからの地域への取り組みについてお話しいたしました。

企業誘致が盛んな菊陽町は急速に発展を続けており、そこで生活する全ての人々の健康寿命を伸ばすことが地域の活性化につながります。そのためには病める人はもちろん、健康な人も対象にした活動が必要です。当センターでは地域ニーズに応じた0次、1次予防事業を展開し、地域住民の健康寿命延伸とQOLの向上に寄与して地域社会に貢献していきます。

その後会場を移動し開院50周年記念祝賀会を執り行いました。来賓挨拶を菊陽町町長吉本孝寿様、熊本大学病院整形外科教授宮本健史先生に賜り、乾杯のご発声を菊池郡市医師会会長・樽美外科整形外科医院院長樽美光一先生より賜りました。いずれも過分なお褒めのお言葉と大きな期待をお寄せいただき晴れやかな気持ちとともに身の引き締まる思いです。またご来場の皆様方とは活発な意見交換に花を咲かせ久しぶりの対面での交流に大いに盛り上がりました。

3年ぶりの開催となった地域連携連絡会、会場へ院外より137名、WEBでの視聴135名、祝賀会へは127名の方にご参加いただきました。誠にありがとうございます。

来年もこうして関係機関の皆様との連携を深め情報交換の場として開催できればと思います。

向かって右より、桑原公倫院長、熊本大学病院 整形外科教授 宮本健史先生、樽美外科整形外科医院 院長 樽美光一先生、古閑博明名誉顧問

向かって右より、桑原公倫院長、吉本孝寿菊陽町長

熊本リハビリテーション病院　沿　革

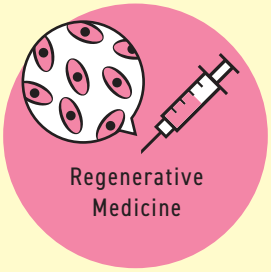
50
kumareha.net

昭和47年（1972年）	8月 医療法人社団熊本丸田会開設
昭和49年（1974年）	1月 熊本理学診療科病院(80床)開院
昭和61年（1986年）	6月 熊本リハビリテーション病院へ名称変更
平成　7年（1995年）	3月 訪問看護ステーションひまわり開設(H7.3.27指定)　6月 201床へ増床
平成11年（1999年）	7月 病院機能評価＜一般種別B＞認定(第131号)
平成12年（2000年）	4月 居宅介護支援事業所サンライズヒル開設 9月 菊池広域リハビリテーション支援センター指定(H12.9.1指定)
平成13年（2001年）	5月 回復期リハビリテーション病棟(開設)
平成14年（2002年）	7月 開放型病院(5床)
平成15年（2003年）	1月 NST稼働施設認定施設　9月 指定通所リハビリテーション熊リハ病院開設(20名枠)、MRI導入 12月 電子カルテオーダリングシステム稼働
平成16年（2004年）	12月 訪問看護ステーションひまわりサテライト開設
平成17年（2005年）	6月 コージェネシステム稼働 10月 病院機能評価(付加機能)リハビリテーション機能評価認定(第5号)
平成18年（2006年）	4月 DPC準備病院(H20年4月～DPC病院)　9月 225床へ増床
平成20年（2008年）	4月 DPC病院
平成22年（2010年）	4月 365日リハビリテーション実施　9月 社会医療法人認可(へき地医療)
平成24年（2012年）	4月 本館グランドオープン、南郷谷整形外科医院合併
平成25年（2013年）	7月 泗水サテライト事業所開設(訪問看護)
平成26年（2014年）	10月 血管造影室増設
平成29年（2017年）	10月 重症虚血肢に対する再生医療認可
平成30年（2018年）	8月 脊髄損傷に対する再生医療認可
平成31年（2019年）	3月 変形性膝関節症、脳卒中後遺症に対する再生医療認可
令和元年	11月 法人名称変更：社会医療法人令和会へ変更
令和　2年（2020年）	3月 病院機能評価認定更新　一般病棟90床、回復期リハ病棟135床 4月 生活リハセンター、サルコペニア・低栄養研究センター開設
令和　4年（2022年）	10月　慢性疼痛に対する再生医療認可
令和　5年（2023年）	1月 病院機能評価(高度・専門機能)リハビリテーション(回復期)認定更新 2月 重点医療機関の指定(確保病床数4床)　6月 新MRI設置、MRIセンター本格稼働、透析装置稼働2台

■昭和49年外観

■平成13年外観

■令和5年外観

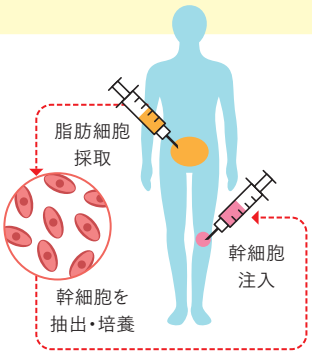


再生医療について

[患者様の現在と未来をつなぐ、新しい治療]

企画・構成／古川　繁（リハビリテーション部 理学療法科再生医療担当）

再生医療とは



再生医療は機能が損なわれた組織・臓器に必要な細胞を補う医療のことを広く指します。再生医療はすでに1980年代には米国で承認されていました。日本においても、表皮の細胞治療が2007年に初めて薬事承認され、続いて自家培養軟骨細胞移植術が2013年より保険適応となっています。さらに、2014年に医薬品医療機器等法ならびに、再生医療等の安全性の確保等に関する法律が施行されたことを契機として、研究、臨床応用が速しています。

当院における再生医療は、2017年より開始された、比較的新しい治療分野になります。対象は重症虚血肢、脊髄損傷、脳卒中後遺症、変形性膝関節症、慢性疼痛が挙げられます。再生医療の治療で使用される細胞にはいくつか種類がありますが、当院が治療で使用するのは、本人の脂肪から取り出した幹細胞です。自分の細胞を使用しますので、比較的安全に治療を進めることが出来ます。

再生医療のイメージ？？

では再生医療という言葉を聞くと、皆さんはどのような印象を受けますか？

世間一般的には、各機関による広報活動の結果、再生医療を受ければかなり改善が期待できるという印象が強いです。しかし、実際に当院で再生医療を受けた方々は、必ずしも期待通りの結果を得られた方ばかりではありません。

そもそも再生医療は、*regenerative medicine*と英訳されます。*medicine*=薬という言葉が示す通り、再生医療とは、自分の体より採取した薬を投与するというイメージで、私はこのことを患者様へ必ず伝えています。そうすると、必ずどんな病気にも効く万能薬がないように、再生医療も決して万能薬ではなく、効果にバラツキがあることがイメージしやすいのではないかと思うからです。

再生医療との向き合い方

ここまでは、少しネガティブなことばかりを並べてしまいました。じゃあ再生医療は受けない方が良い医療なの？という声が聞こえてきそうです。

しかしそうではないと思っています。私が言いたいのは万能薬ではないということで、他に治療方法がない場合の、選択肢の一つとなりうる治療法であることに違いはありません。実際、一定の効果が得られたことで複数回、再生医療を実施された方もいらっしゃいました。

大事なのはあふれる情報の中で、いかに正しい情報を取捨選択するかです。最初に申しました通り、再生医療は治療法がさまざまあること、使用する細胞がいくつもあることからも、全てを一緒に考えることは出来ません。従って、しっかりと主治医と話をして、当院の再生医療を理解して頂き、治療に臨んで欲しいと思います。その支援をするために現場で働く私達がいます。インターネットやSNSの情報だけではなく、是非現場の声を聞いて頂き、治療を受ける上での材料として頂ければと考えています。

そのうえで、当院で再生医療を受けて下さる際には、最大限の支援を行うよう努めていきます。

くまりは N!S!T! Nutrition Support Team

入院中に多職種で行う栄養管理：栄養サポートチーム

Nutrition Support Team：NST

急性期病院でのNST経験

急性期と回復期で患者さんの病態でどのような違いがあるのでしょうか。
そして、その病態の違いが栄養面にどのような影響を与えているのでしょうか。

リハビリテーション科
堀（ほり）　耕太（こうた）

急性期と回復期の栄養面での違い

急性期と回復期の最大の違いは、急性期に入院する方は原因の如何に問わず炎症を抱えているということが挙げられます。しかも、重症であればあるほど炎症は強く、それに伴い体内でも重要な変化が生じます。急性炎症の際、体内ではカテコラミンやストレスホルモンが分泌され、簡単にいえば異化状態となっています。

そのため、筋肉や脂肪からエネルギーが供給（内因性エネルギー）され、必要とするエネルギーの一部を体内で賄っている状態となり、足りない分を栄養として補給する必要があります（図1）。このため、急性期患者（特に重症患者）の栄養面の特徴としては、必要エネルギーよりも少なめに補給するという点が挙げられます。

これに対し回復期では急性炎症は落ち着いている状態が多く、体を同化の状態に保つために、積極的にカロリーやたんぱく質を投与していく必要があります。

Overfeedingによる悪影響

さて炎症が強い時期は栄養を抑えめにと紹介しましたが、ここで問題となるのが、栄養として補給した分と内因性エネルギーの合計が必要エネルギーを上回ってしまった場合で、overfeedingといいます（図2）。この状態では、高血糖と高インスリン状態となり、これは体にとって大きな負担で、負のアウトカムと関連します。

この状態を避けるために、炎症の強い時期には必要エネルギーを上回らないように少なめから慎重に摂取カロリーを増やしていくような対応をしていきます。

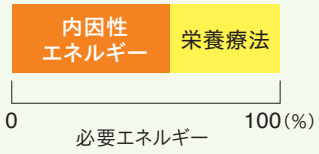
急性期病院での栄養管理の難しさ

急性期といっても原疾患の治療がメインの方から、状態が落ち着いている方など様々です。そのため、栄養面では原疾患の治療がメインでどちらかといえばブレーキをかける必要がある方もいれば、炎症は改善しているので機能改善に向けてアクセルを踏み込んで栄養管理を行う必要のある方がいることになります。

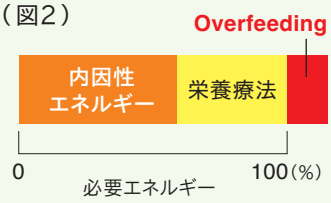
しかしながら、その境界は残念ながら明確ではなく、探り探り行っていきます。そしてその結果、十分には栄養面を整えることができないまま次の医療機関へ転院というのも多く経験します。

送る側、受ける側それぞれで栄養のベースとなる考え方に違いがあることを理解することが連携をする上で重要な一歩と考えています。今回の内容が急性期と回復期、さらにその先の栄養管理をつなぐ一助になれば幸いです。

（図1）



（図2）



「リハマインドの芽を育む」熊本地域リハビリテーション科専門研修プログラム

リハビリテーション科専門研修プログラムは、2018年度から始まった新専門医制度のもとでリハビリテーション科専門医になるために編纂された研修プログラムです。日本専門医機構の指導のもと、日本リハビリテーション医学会が中心となり、リハビリテーション科専門研修カリキュラム(以下、研修カリキュラム)が策定され、さまざまな施設群で個別の専門研修プログラムが作られています。熊本リハビリテーション病院では経験豊富な指導医により教育するシステム作りを行い、幅広い経験を積む機会を提供し、将来、日本のリハビリテーション医療においてリーダーシップを果たす人材を育てます。

昨年度当院で研修カリキュラムを専攻された先生方に感想を伺いました。

高橋 慶亮 先生

回復期病棟で整形外科以外の患者様を担当したことがなく戸惑うことが多々ありました。その都度リハ科の先生方はもちろん他科の先生方、スタッフの皆様にもご助言、ご指導頂けたことで事故なく半年間の研修を終えることが出来ました。特にリハ科の田中先生には日々の診療から専門医試験の準備まで丁寧なご指導頂きありがとうございました。半年終わる時にはまだ熊リハで働きたかったと思えた研修でした。

今後も整形外科の外来や当直で診療させて頂きますので宜しくお願い致します。

左から、高橋先生、古閑先生

古閑 丈裕 先生

熊本リハビリテーション病院では脳梗塞や下肢切断後、頸髄損傷や火傷後の拘縮など多くの回復期の症例を経験することができました。急性期病院から多くの症例が日々紹介されるため様々な患者様を担当できます。またリハビリテーション科の先生は患者さんの加療について質問するとすぐに快く教えてくれるためストレスなく研修に取り込むことができます。またNSTや嚥下造影検査に参加することで栄養療法や嚥下についての理解を深めることができました。熊本でリハビリテーション科の専門医を目指すならお勧めできるプログラムです。

今月の粥愛さん 13

文・写真
栄養管理科／米田 巧基

皆さん、スキューバーダイビングをした事はありますか?

私の初めてのダイビングは、屋久島旅行でした。縄文杉を目当てに行った屋久島でしたが、体験ダイビングをした時に衝撃を受けました。海の中に潜ると、今まで見た事のないサンゴ礁一面の海。ゆっくりと浮遊しながら泳ぐ初めての感覚に感動したのを覚えてます。奇跡的にウミガメに出会えて、写真も撮れたりと良い思い出になりました。そこからダイビングの虜になってしまいました。

どうしてもライセンスが欲しくなり、翌年に奄美大島でライセンス取得に挑戦しました。屋久島のサンゴ礁やウミガメに会える海も綺麗でしたが、砂浜と青い海一面の奄美大島も凄く綺麗でした。堤防の下に潜った時には、柱一面にカサゴの群れが居た時は少し怖かったです。旅行後半は台風に巻き込まれて、ホテルで過ごしたのもいい思い出でした。無事にライセンスを取得し、そこから私のダイビング人生が始まりました。

天草(下田辺り)の海は、南の島とは違った景色で洞窟に潜ったりと違った楽しみがありました。ウニがたくさんいたのもびっくりでした。下甑島(鹿児島県)の海は、ごつごつした海岸や綺麗な魚が印象的でした。船も通らないため、とても静かだったのも覚えています。かなり田舎だったので、穴場だと思います。桜島付近(鹿児島県)の海は、沈没船がたくさんあるスポットでした。ロープや船の間を泳いでいる時はトレジャーハンターになった気分でした。

最近はとある感染症のせいで、なかなか潜れてません。次の目標は、徳之島の海でダイビングをする事です。いつかは離島の海を制覇したいなと思っています。皆さんもぜひ、ダイビングに挑戦してみて下さい!

An Encouragement of exercise Season6 《3》

ながら運動のすすめ

いつでもどこでも短時間で効率よく効果が
得られるながら運動第6シーズンは、**骨トレ編**です。
骨トレで骨は若返ります！
第3回は、**四股踏み**の紹介です。

【対象者】 ・立位が不安定な方

～回数～ 1日/10回（左右交互に1回）

【方法】

① 足をできるだけ大きく開き、両膝に手を当てます。

② 右足をゆっくり高く上げます。

③ 右足を下ろし
かかとに衝撃を与えます。
※左足も同様に行います。

社会医療法人令和会
熊本リハビリテーション病院
〒869-1106 熊本県菊池郡菊陽町曲手760
TEL.096-232-3111 FAX.096-232-3119

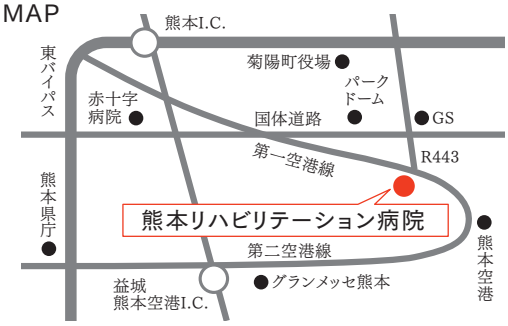
院是
病める人に愛と奉仕を
己の仕事に誇りと責任を
組織の中に英知と秩序を
そして理想の医療に向かって
一歩一歩前進しよう

病院基本理念
1. 地域ニーズに応えうる
高機能の総合リハビリテーション病院を目指します
2. 患者様の権利を尊重し
満足して頂ける医療サービスを提供します
3. 保健・医療・福祉の連携を推進し地域社会に貢献します

診療科目

・整形外科 ・リハビリテーション科 ・内科 ・循環器内科
・呼吸器内科 ・消化器内科 ・代謝内科 ・脳神経外科
・脳神経内科 ・形成外科 ・泌尿器科 ・麻酔科
・放射線科 ・血管外科 ・心臓血管外科 ・歯科
・歯科口腔外科

MAP



関連施設

・熊本整形外科病院
〒862-0975 熊本市中央区新屋敷1丁目17-1 TEL:096-366-3666
・介護老人保健施設サンライズヒル 〒869-1106 熊本県菊池郡菊陽町曲手760
TEL:096-232-5656
・南郷谷リハビリテーションクリニック 〒869-1602 熊本県阿蘇郡高森町高森2186-1
TEL:0967-62-3351
・訪問看護ステーションひまわり（熊本リハビリテーション病院併設）
TEL:096-232-3113
・指定居宅介護支援事業所サンライズヒル（熊本リハビリテーション病院併設）
TEL:096-232-3115
・通所リハビリテーション 熊リハ病院（熊本リハビリテーション病院併設）
TEL:096-232-3970
・通所リハビリテーション南郷谷 〒869-1602 熊本県阿蘇郡高森町高森2186-1
TEL:0967-62-3351
・熊本リウマチセンター（熊本整形外科病院内）
TEL:096-366-3666
・菊池地域リハビリテーション広域支援センター（熊本リハビリテーション病院内）
TEL:096-232-3194
・事業所内保育所くまりハキッズガーデン 〒869-1106 熊本県菊池郡菊陽町曲手760
TEL.096-233-2720

発行／熊本リハビリテーション病院広報委員会